

Ⅱサムエル9章「真実を尽くす」

キリスト者は神の恵みにより、イエス・キリストを信じて救われました。そして、キリスト者は内に働く神の恵みにより、造り替えられていきます。他の人々に恵みをもたらす者として造り替えられていきます。

1. ダビデの真実（：1～8）

古代においては、新しい王朝を始めた王が、前の王朝の子孫が残っていると復讐や反乱の火種になるので、子孫や関係者を一掃するということがよくありました。しかし、ダビデはそうしませんでした。

1節. ダビデはヨナタンとサウルに対して、彼らの子孫を滅ぼさないという約束をしていました（Ⅰサムエル20：14～17、42、24：20～22）。サウルとヨナタンはすでに死んでいますが、ダビデは彼らとの誓いを守ろうとします。サウル家の生き残っている人がいれば、その人に真実を尽くそうとします。

ダビデが王となり、サウル家の人々は隠れたのでしょうか。それでも、サウルの家のももでツィバという人がいました。この人がダビデのところに呼び出されて、ダビデはこの人に言いました。「サウルの家の者で、まだ、だれかいなか。私はその人に神の恵みを施そう」。

ツィバはダビデのことが真実であることを感じたのでしょうか。自分が知っていることを伝えます。ヨナタンの息子で足の不自由な者、メフィボシェテが生き残っていること、そして、ロ・デバルのアンミエルの子マキルの家にいることを伝えます。エルサレムからは遠く離れた場所で、ひっそりと生活していたのでしょうか。

ダビデは人を送って、ヨナタンの子メフィボシェテを連れて来させました。メフィボシェテはきっと自分は殺されるのではないかと恐れていたことでしょう。しかし、ダビデはすぐにその恐れを和らげます。

7節。「恵み」はヘセドということばで、この箇所では3回使われています。3節では「神の恵みを施そう」と言っています。「恵み」は「神の恵み」です。神が人と契約を結んでくださり、その契約に基づいて神が人に恵みを施してくださいます。その「神の恵み」をダビデはヨナタンとの契約に基づいてメフィボシェテに施すと言います。「神の恵み」に倣って、自分も恵みを施すと言います。そのことを1節では「真実を尽くしたい」と言っています。同じヘセドが「真実」と訳されています。

具体的には二つのことをダビデはメフィボシェテに約束します。一つは「あなたの祖父サウルの地所をすべてあなた」返すということです。イスラエル人にとってヨシュアの時に分け与えられた土地は神から与えられた相続地です。神の契約に基づいて与えられた恵みです。ですから、サウルの地所を返すことは、まさに「神の恵みを施す」ことなのです。また、実際的にも、その地所の産物によって生活することができます。それも「神の恵み」なのです。

もう一つダビデが約束したことは、「あなたはいつも私の食卓で食事をするようになる」ということです。メフィボシェテがいつも王宮で食事をし、王によって守られること、特別の栄誉を受けることです。そして、食卓に着かせてくださることも「神の恵み」を表しています。

そのように神の恵みを受けている者として、人にも神の恵みを分け与えるのです。あり得ないほどの厚意をいただけると聞いて、メフィボシェテは驚きと感謝にあふれたでしょう。

8節. 自分のことを「死んだ犬のような私」と言っています。足が不自由な彼は弱者として生きることを強いられてきたのでしょうか。そんな自分を顧みてくださることに感謝しかなかったでしょう。ダビデに対する感謝はもちろんですし、ダビデが言い表している神の恵みに対する感謝に溢れたことでしょう。

2. メフィボシェテの生活（：9～13）

ダビデはメフィボシェテに約束したことをその通りに実行します。メフィボシェテに対してダビデは配慮します。祖父サウルの地所をすべてメフィボシェテに返すとともに、その地所を管理するしもべに命じます。

9～10節. ダビデは、先に呼び出したサウルのしもべのツィバをまた呼び寄せます。サウルの地所をメフィボシェテに返したことを伝え、ツィバと家族はメフィボシェテのためにその土地を耕し、作物を彼に納めるようにと命じます。弱さを持つメフィボシェテと彼の家族の生活が守られるように、ダビデは配慮しました。こうして、約束の一つ、サウルの地所を返すことを実行し、ただ返すだけでなく、その土地を管理するしもべをメフィボシェテに仕えさせ、土地の管理を命じたのです。

もう一つの約束、メフィボシェテがいつも王の食卓で食事をすることも実行されました。11～13 節。地所はツィバと家族が管理し、メフィボシェテと家族はエルサレムに住みました。そして、メフィボシェテは「王の息子たちの一人のように」「いつも王の食卓で食事をし」ました。自分の息子たちと同じように扱うのですから、ダビデの真実が表されています。

ダビデがそこまでしたのは、ヨナタンに対する愛と、彼と誓った契約を主の前で守る誠実によることだったと思います。彼はヨナタンに誓ったことを具体的に、またあり得ないほどの厚意によって実行しました。

このダビデの態度は、私たち主にある兄弟姉妹の間の愛の行いに適用できるでしょう。そして、その愛は、主の御前での誠実に基づいていることを覚えていたいと思います。

メフィボシェテには「ミカという名の小さな子」がいました。歴代誌に記されている系図を見ると、ミカの子孫が続いたことが分かります。つまり、サウルの子孫が、ヨナタン、メフィボシェテ、ミカの後も続いていき、歴代誌の時代、バビロン捕囚から帰還した民の中にまで続いていったことが分かります。サウル、ヨナタンが願ったように、子孫が続いていったのです。その実現には、神、主の契約と守りがありました。また、その中でダビデの契約と守りがあって、用いられました。ダビデが約束を果たしたからこそ、契約は実現したのです。

そのように、主の恵みに感謝して応答して、真実を尽くすことで、主の約束は実現していくのです。主の約束に対して、自分の分を果たそうとすることが大事なのです。

この箇所に出てきたメフィボシェテとそのしもべツィバは、サムエル記のこの後の章にまた出てきます。ダビデの苦難の中で助けや慰めを与える存在になります。

この章を読んで、ダビデがメフィボシェテに神の恵みを施したことは、ダビデの子孫として生まれたイエス・キリストによって私たちに神の恵みが与えられたことに重ね合わせられます。

私たちは、生まれながらのままで、自分の罪の奴隷であり、不自由な者でした。そのままで滅びに向かう者でした。しかし、イエス・キリストによって神の恵みを与えられました。キリストの十字架により、その贖いによって、罪を赦され、神の子とされました。神の契約の中で、神の祝福をいただいて生きることができるようになりました。また、キリストのいのちによって生かされ、キリストとの交わりの中で生きる者とされました。やがて御国において、王の王であるお方の食卓に私たちも連なることができる約束と希望を与えられています。そして、それらのことを象徴し、覚えることができる聖餐式に、今日も共にあずかることができます。このような神の豊かな恵みを感謝します。

そして、キリストによって神の恵みをいただいた私たちは、ダビデに倣って、真実を尽くしたいと教えられます。ダビデが、ヨナタンの亡くなった後も、彼との契約を覚えていて、主の前に誓ったことを誠実に果たして、メフィボシェテに真実を尽くしたように、私たちも主の前に誠実に歩み、周りの方々に真実を尽くしたいと願います。主の約束の成就に向けて、私たちの分を果たすのです。主を信頼し、自分の分を果たしましょう。

また、ダビデに倣い、私たちは互いに親切にし、赦し合うことに召されています。ダビデとともに私たちの模範となるのはイエス・キリストです。主イエスは罪深い者でさえも迎え入れ、共に食事をしました。

神の恵みを受けている私たちですから、神の恵みを施し、主にある兄弟姉妹に、また家族に、周りの人たちに、真実を尽くしましょう。